

## — 第七百号 —

(2009年秋冬号)

### 秋のミニ市と秋の有田陶磁器まつり

しん窯恒例の秋のミニ市（11/1～3）も多くのお客様に来ていただいて、成功裡のうちに終わりました。毎年春と秋の市で準備・後片付けと手際よく、準備に丸2日、後片付けに1日を要して元に戻ります。市期間中の喧騒はどこに行ってしまったのだろうと思われる位、様変わりしてしまいます。

今年の秋のミニ市は、1982年（昭和57年）から数えて28回目。春は30回を体験しているの、何と58回目の市イベントを開催することになります。春は蔵ざらえ。秋はおもてなし。とコンセプトを決めて毎年開くようになりました。そして町全体に広がり、名称も秋の有田陶磁器まつりとなって今年で第5回目を迎えます。有田はやきものだけではなく、山紫水明な自然も私達の自慢です。特に秋の紅葉は常緑樹である松の緑や岩肌の黒などと対比し溶け合っただけで絵にも描けない美しさに思わず見とれてしまいます。最近では街路樹のかえでも成長し、晩秋の頃は紅葉のじゅうたんのような歩道になります。

しん窯秋のミニ市は例年11月1日～3日ですが、有田秋の陶磁器まつりは今年11月21日～25日でした。来年の秋はこの時期を逃さないように、是非お誘い合わせの上有田へしん窯へお出かけ下さい。

ところで、先日の佐賀新聞に、文化の日を考えるというコラムが載っていました。「文化の日」はどうも日本固有のもののように。国民の祝日に位置づけて国民全体でお祝いし、日本の文化国家を確立しようという趣旨がありありと伝わってきます。近年特に殺伐となって、豊かな心をどこかに置き忘れたような風潮がありますが、日本しかない「文化の日」に文化とは何か？など初心に帰って虚心坦懐に考えてみなければと思う次第です。



11月3日、しん窯工房内で九州交響楽団メンバーによる弦楽アンサンブルコンサートが開催されました。

## ハマのころを読んで

「ハマ」をおみやげにさせていただいたお客様から、心温まるメールをいただきました。とても嬉しかったので、お客様の許可をいただいて一部引用させていただきました。H・O様、本当にありがとうございました。

「ハマのころ」の思いを伺い、心底より社長様の透き通った「ココロ」に触れたように感じました。

私も社員の為になる「経験」や「情報」を社内メール等で知らせ、社員にも「人の為になる」仕事をして欲しいとよく言っておりました。ひとりで悩んだりせず情報発信することで皆で協力すればたやすいコトもあるとの思いからです。

ただ、私の「人の為になるコト」は小さな器の話で、「ハマのころ」は、ECO且つ無料で「人の為になる」コトは、町や有田の為の純粋な思いであることとその透明感が伝わり、その「奉仕の精神」こそが私に大いに欠けていた点であると思いました。

更に「吾唯足知」を彫る発想とその由来を伺い知り、業界の先人が長年に渡り苦勞と努力を重ねてきたことに思いがめぐり、私個人の「足る」を「知らねばならぬ」ことと奉仕の精神の大切さを痛感致しました。

有田地区の売上の低迷も、消費地の低迷も激動の10年が過ぎ、新たな時代をどうしても「存続」させていかなければならないと思います。

この「ハマのころ」を大切にし、社員には伝えましたが、娘や後世にも伝えてゆきたいと思っております。

昨今「物語」を伝えられず「売れない」というコトをよく感じます。伝承の器の造り手の思いがお客様に伝わらないことが大きく起因しているように思います。

2010年のキーワードに、高齢化、ECO、ものづくりがあげられます。「もったいない」という言葉は、日本発信の言葉と聞きます。もったいない精神と青花の物語や御社の技が「語られる」ことを心よりお祈り申し上げます。



弊窯展示場・JR有田駅で  
配布いたしております。

## パリに咲いた古伊万里の華

今年は1659年東インドオランダ株式会社が平戸に商館を開いてから350年という記念年を迎えます。それから約100年間主に有田焼の輸出が始まり、最盛期には年間90万個といわれる大量受注を受けています。

当時の有田は、50ヶ所もある共同の登り窯で競いあったり助けあったりして世界市場を席卷していました。しん窯も1830年頃に築窯されていますので、窯のおやじとしてではなく、一陶工としてまた一職人として深く関わった事でしょう。時代を越えて今再び来る2016年の有田磁器創業400年祭へ向けて、窯のおやじも職人さん達も有田焼とは何かを自問自答する良い機会であり、展覧会を通して古伊万里達が私達を叱咤激励しているように思えてなりません。

2011年度は有田で里帰り展を開こうと企画されているようですが、2016年の400年祭に向けて産学官民あげて有田の底力を見せる時期にきています。

### ～パリに咲いた古伊万里の華 展覧会 開催日程～

東京都庭園美術館 2009年10月10日(土)～12月23日(木・祝)

九州国立博物館 2010年4月6日(火)～6月13日(日)

MOA美術館 2010年7月17日(土)～10月3日(日)

兵庫陶芸美術館 2010年10月16日(土)～2011年1月10日(月・祝)

## 究極のラーメン鉢物語

来年3月5日は、あの日清食品創業者安藤百福翁の生誕100年だそうです。

2004年(平成16年)3月に、NHKおーい日本私の好きな佐賀県で有田焼窯元の若者達が究極のラーメン鉢づくりに挑戦しました。日清食品さんへたびたび通ってアドバイスを受けて、悪戦苦闘の末、合格のお墨付きをいただきました。使い易いラーメン鉢としてラーメン好きの日本人に今尚愛用され、ヒットセラーからロングセラーとして有田焼を下支えしていただいています。

また、私達は、NHKのプロジェクトXで、魔法のラーメン82億食の奇跡という番組で、創業者の安藤百福翁のインスタントラーメンにかける執念の記録を見せていただき、無から有を生み出すやきものづくりと重ね合わせながら感動したものでした。

あれから5年。安藤百福翁生誕百年という報を得て、中国の文字百福を文様化してラプロ総意でお祝いしようと思気込んでいます。決まれば嬉しいですが、何事もOKが出るまでのプロセスは山あり谷ありです。やるしかありません。

## 友遠方より来る！

がばいばあちゃんのロケ地として有名な武雄温泉は、有田から20km足らずの距離です。私達の母校武雄高校は県内有数の進学校です。高校時代に机を並べていた陣内靖彦君（通称陣ちゃん）が、御夫婦でひょっこり訪ねて下さいました。1996年（平成8年）有田地区を主会場として開かれたやきものの博覧会である世界焔（ほのお）の博覧会で立ち寄ってから久しぶりの再会でした。日本教師教育学会会長として超多忙な日々を送っているという、バリバリの現役でした。

日本教師教育学会のHPにアクセスしたら、陣ちゃんの晴れやかな笑顔とあいさつ文が載っていて、頼もしくまた誇らしく思いました。同級生が今尚現役で頑張っていると、私達夫婦も職人さん達と一緒に生涯現役でやきものづくりを楽しめる喜びをかみしめています。超多忙な中で訪問していただいたのでわずかな時間しか滞在できませんでしたが、すでに2人は高校時代の思い出にふけていました。ようやく政治も教育問題を政治の中核にとらえ、本気で論議されているようですが、身近に教育のプロ中のプロがいた事に嬉しくなりました。また数十年ぶりに交流が始まり、ぶれない日本人の心の芯を育てる環境を作ってみたい、と向学心がメラメラと沸いてきました。



陣内靖彦 氏  
(日本教師教育学会HPより)

## 職人さんのひとりごと

### ～第21回・井上篤子さん～

しん窯に入社して20年くらいになります。結婚してすぐ入社し、それ以来3人の子育てをしながらですので…あっという間でした。

こんなに長く続けられたのは、周りの皆さんの理解とご協力があったからと思います。また家族にも感謝しています。

私の仕事は「濃み」という下絵付けです。何年やっても素焼の時の色と窯上りの色がうまくいきませんが…私はこの仕事が好きです。

